



ン人に首都を占領され、1736年、滅亡した。イラン全土はアフガン人やトルコ系騎馬遊牧民族が抗争する戦乱の地と化した。トルコ系の**アフシャル朝** 1736-96、**ザンド朝** 1751-94 が短命で滅んだ後、1796年に同じくトルコ系の別の民族によって

【12:                                       】 1796-1925 が成立した。首都はテヘラン。

なお、アフガン人とはアフガニスタンで多数を占める民族。パシュトゥーン人とも言う。

復習：ティムール朝（1370-1507）を滅ぼしたのはウズベク人（厳密にはシャイバーン朝）。サファヴィー朝の建国者イスマーイールはシャイバーン朝建国者ムハンマド=シャイバーンを1510年破り戦死させた。

- 2) **カージャール朝**は19世紀に統治機構を整備しはじめたが、カフカースのアルメニアをめぐるロシアとの戦争（イラン=ロシア戦争）に敗れ、1828年、不平等条約である【13:                                       】を強要され、アルメニアなどの領土を割譲した。また、1838年から、ロシアの支援を受けてアフガニスタンへの侵攻を繰り返したが、ロシアの南下を恐れるイギリスの参戦を招き、1856年にアフガニスタンの独立を認めざるをえなかった。国内では大反乱と大事件があった。後掲 3) と 4) で述べる。

注：トルコマンチャーイとは地名でありトルコとマンチャーイの間に「・」や「=」を入れてはいけない。

- 3) 1840年代には【14:                                       】が農民や商人の間に浸透していった。1848-50年、**パーブ教徒の乱**が起こった。これはイギリスからの工業製品の流人によって窮乏した手工業者や商人の不満に基づくもので、パーブ教の信仰とは直接には無関係。パーブ教、バハーイ教についてはNo.147参照。
- 4) **カージャール朝**が列強に様々な利権を与えてきた※1 ことに民衆は大きな憤りを感じてきた。1890年、タバコ販売などの独占権がイギリス人に譲渡された。これに抗議して、シーア派のウラマー（宗教知識人）を中心にバザール商人たちも参加して**民衆がいっせいに喫煙をやめた**※2。これが【15:                                       】（1891-92年）である。この運動のために利権譲渡は撤回され民族意識は高揚したが、その賠償金の支払いを借款に頼ったため、かえってイギリスへの従属を深めてしまった。

※1 **カージャール朝**統治下のイランは、ヨーロッパ向けの絨毯生産などで経済は発展していた。政府は19世紀半ば以降、近代化のための改革を試みたが失敗、1870年代には財政が破綻した。そのため、道路建設、銀行開設などの利権を**イギリスやロシアの投資家**に譲渡して収入を確保しようとした。

※2 高位のウラマーがタバコを違法とするファトワー（教令）を出したのでムスリムは一斉に喫煙をやめた。飲酒できないイスラーム世界ではタバコは最大の嗜好品である。

《蛇足》23歳までヘビースモーカーで必死に断煙した著者としては、喫煙がそんなに簡単に止められるものか半信半疑であるが、これも神の力なのであろう。

- 5) 1905-11年、前掲4)の成功を背景にヨーロッパの知識を吸収した知識人が、税制改革を発端として、商人の協力を得て、立憲運動を展開し、1906年にはイラン最初の国民議会が開かれ、フランス人権宣言の影響を受けた憲法が制定された。これを。【16:                                       】という。その革命後、急進派、保守派が対立する中、**英露協商**（1907※3）を結んで提携したイギリス・ロシアの圧力をうけたシャー（国王）は、1911年、議会を解散させ**革命は挫折**した。失敗はしたが、ここでも立憲主義は大きな意味を持った。

※3 イラン北部はロシア、イラン南東部はイギリス、アフガニスタンはイギリス、チベットは相互内政不干渉という内容で両国の勢力範囲を協定した結果、両国の対立は緩和し、協力してドイツの東方進出に対抗することとなった。

## アフガニスタン 名目上は独立国

- 1) アフガニスタンでは、1747年に**ドゥッラーニー朝アフガニスタン王国**が成立し、今日のアフガニスタンの領域を統一し、インドから侵攻してきたイギリス勢力を二度も撃退した。これを、【17:                                       】と呼ぶ。次の2回である。

①第一次アフガン戦争(1838-42)はイギリスの完勝に終わった。

②第二次アフガン戦争(1878-80)はイギリスの勝利ではあるが、イギリスはスッキリ勝ったわけではないが、とにかく**外交権は奪い、アフガニスタンを保護国化**した。

1879年にイギリスの保護国となる条件で講和を結んだが、抵抗は続いた。イギリスも大損害を受け、アフガニスタンは大混乱状態であったため、保護国とは言っても直接的な支配はあきらめ、実質的な支配者による統治を許した。ただし、外交権はイギリスにあり、名目上は独立国だが、**英領インド以外と国交を持つことを禁じられ、対ロシア緩衝地帯として利用された**。なお、1907年英露協商でロシアもこれを承認。多くの教科書や参考書には「第2次アフガン戦争の勝利によって、イギリスはアフガニスタンを事実上保護国化した」などと書いてあり、受験的にはそれで十分だが、事態はそんなに単純ではない。

- 2) 戦間期には第三次アフガン戦争(1919)があった。

1919年、アフガニスタンは独立を宣言。イギリス軍との激しい戦闘が続いたが長期化を避けるため、【18:                                       】

】が結ばれ、アフガニスタンは外交権を回復し、**完全独立を達成**した。

## イスラーム復興のはじまり

- 1) 18世紀の中頃からイスラーム世界の政治的混乱が続く。それはオスマン帝国の衰退、サファヴィー朝崩壊、ムガル帝国の弱体化による。それまでの王朝に頼ることなく、イスラームの改革によって危機を乗り越えようという運動が起きた。

- 2) 18世紀のアラビアでは、神秘主義教団の間で改革運動が始まった。コーランの朗誦やイスラーム法を教える組織として**新しい教団がいくつも成立**※4した。19世紀後半以降、汽船の発達などでムスリムの**メッカ巡礼**が激増した。巡礼者を通じて、この新しい神秘主義教団の動き、およびワッハーブ派（始まったのは18世紀中頃）の運動、アフガニーの思想（パン=イスラーム主義）は全イスラーム世界に広がった。No.147で詳しく述べる。

※4 サヌーシー教団がよく例としてあげられる。19世紀にメッカで創設、リビアで広まる。フランスやオスマン帝国と対決。1911年以降はイタリアの侵略と戦う。1951年にリビア王国が成立すると、教団の指導者が国王となった。1969年に革命で王制は打倒された。